

分科会	内容	登壇(予定)者【随時更新していきます。】		
		役割	所属	氏名(敬称略)
① 自転車まちづくり	<p>テーマ：自転車まちづくりークルマ中心から人の心がときめく地方へー</p> <p>私たちの暮らしや地方のウェルビーイングを高める可能性が自転車を活用したまちづくりに秘めているか探ります。</p> <p>小林さん：安全で安心な環境を創るための道交法改正など国の最新動向や、自転車活用推進の重要性など</p> <p>三国さん：世界や国内の事例をもとに、クルマから自転車にシフトを促す取り組みや、子どもの成長を支え持続性の高いまちを育む自転車の役割など</p> <p>河合町長：県内市町の首長が連携した「ふくい自転車活用サミット」の動向と期待、自転車を活用したまちづくりへの想いなど</p>	座長	福井工業大学 まちづくりデザインセンター 副センター長 工学部建築土木工学科 教授	吉村 朋矩
		パネラー	地球の友・金沢 JCC全国委員会 会長	三国 成子
			NPO法人自転車活用推進研究会 理事長 JCC全国委員会 副会長	小林 成基
		コメンテーター	国土交通省道路局 自転車活用推進本部事務局 次長	河合 永充
② 走行環境	<p>テーマ：自転車通行を考慮した道路設計の主流化(メインストリーミング)</p> <p>自転車の性能を發揮させつつも、安全な自転車通行空間を整備していくことは、本会議第1回からの中心議題の一つです。</p> <p>日本では1970年以降、自転車歩行者道の整備を進めてきましたが、歩行者の安全上、徐行が義務付けられ、自転車の性能を生かして活用していくのが難しくなっています。そのため、整備していく際には「自転車道」「自転車専用通行帯」の整備を求めています、その整備は遅れています。</p> <p>今年度、8年ぶりに改正された国の「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」では、道路構造令の特例規定を活用し、今ある道路の幅員の中でも、自転車専用通行帯等の整備が可能であることを図で例示するなどにより、あらゆる道路で自転車通行空間のある道路設計を促しています。</p> <p>本分科会では、新ガイドラインのポイントを解説しつつ、地元福井の事例も交えながら、車道上の自転車通行を考慮した設計を当たり前(主流化)にはどうしたらよいかを語り合います。</p>	座長	中央復建コンサルタント(株) JCC全国委員会 幹事	小路 泰広
		話題提供	国土交通省近畿地方整備局 福井河川国道事務所 所長	野村 文彦
		話題提供	大阪府道路整備課グループ長 (前・自転車活用推進本部事務局 係長)	楠村 幸正
		コメンテーター	福井大学 教授	川本 義海
③ 安全・教育	<p>テーマ：「安全と教育」</p> <p>ー現場に基づく「自転車の安全と教育」ワークショップー</p> <p>○この分科会はワークショップ形式で行います。1グループ5人~8人の小グループを作り、参加者は全員ワークショップに参加します。</p> <p>○最初に敦賀市での二つの事例を紹介し、このようなケースでいかに安全性を高めていくか、ハードとソフトの両面から考えます。</p> <p>○自転車交通安全教育について、福井県の取り組みを紹介します。</p> <p>○この分科会参加者は前日午前中の現場視察(バス)に参加できます。(ただし人数に限りあり)</p>	座長	地球の友・金沢 北陸大学 名誉教授 JCC全国委員会 監事	三国 千秋
		パネラー	NPO法人自転車活用推進研究会事務局長 JCC全国委員会 幹事	内海 潤
			日本自転車文化協会 理事 JCC全国委員会 幹事	御子柴 慶治
		事例発表	福井県防災安全部副部長(県民安全)	田村 光幸
	福井県土木部理事	平林 透		
④ サイクルツーリズム	<p>テーマ：サイクルツーリズムー観光としての広がりをー</p> <p>サイクルツーリズムを“旅”，“体験”としてターゲットの広がりを目指すための戦略を考えます。</p> <p>本間さんから海外事情、坂本さんはしまなみでの分析例を、小美野さんからサイクリトレインの活用、高橋さんからは福井や鳥取の取り組みなどを話題提供いただき、矢部教授、経営コンサルタントの小松氏のコメントから、成果の得るサイクルツーリズムの戦略を考えます。</p>	座長	徳島大学 大学院 研究部長 副理事(地域連携担当) JCC全国委員会 副会長	山中 英生
		パネラー	エminentパートナーズ株	本間 恵子
			(一社)しまなみジャパン 専務理事、 JCC全国委員会 幹事	坂本 大蔵
			(株)ドーコン、JCC全国委員会 幹事	小美野 智紀
	(株)ARCH・ヒーロー北海道 代表取締役	高橋 幸博		
コメンテーター	徳島大学 総合科学部 教授	矢部 拓也		
	(株)モデルピレッジ	小松 一之		
⑤ 公共交通としての自転車	<p>テーマ：公共交通としての自転車</p> <p>地域をつなぐ自転車と公共交通の連携、そのあり方は？</p> <p>自転車もバス・鉄道などと組み合わせることで、格段に行動範囲や行動パターンが広がります。また、シェアサイクル・レンタサイクルなどを組み合わせることで、自由度を高めることが可能になります。ただし、使われる移動手段となるためには、貸出返却方法・料金など利用のニーズと合致した設定や、結節の方法など、仕組みの工夫がポイントとなります。</p> <p>本分科会では、地域、公共交通事業者、自転車サービス提供者などの視点から、過度に自動車に頼らない「人と地域の幸せ」につながる「公共交通としての自転車」の可能性について議論していきます。</p>	座長	東海大学 准教授 JCC全国委員会 幹事	鈴木 美緒
		パネラー	つるがシェアサイクル (株)日本海コンサルタント JCC全国委員会 事務局長	片岸 将広
			上田電鉄(株) 常務取締役	國枝 聡
			小浜線利用促進協議会事務局(小浜市企画部 新幹線・交通まちづくり課主幹)	的場 貴志
コメンテーター	国土交通省都市局街路交通施設課 街路事業調整官	林 良太郎		
モデレーター	公益法人日本交通計画協会 JCC全国委員会 幹事	三浦 清洋		